

<p>第 195 回 都市懇サロン レポート</p>	<p>「中国諸都市のまちづくり最新事情」 －地下空間の活用を中心として－</p>		
<p>講 師</p>	<p>都市地下空間活用研究会 主任研究員 粕谷太郎氏</p>	<p>開 催 日</p>	<p>平成 27 年 10 月 29 日 (木) 18 : 00 ~ 20 : 00</p>
<p>講 師 プロフィール</p>	<p>1968年 鉄建建設入社 1987年 台湾でシールド 工法の技術移転 1989年 本社プロジェクト 推進部 2009年 都市みらい推進機 構都市地下空間活用研究会担当 現在に至る。</p>	 <p>都市懇サロンのスナップ</p>	
<p>お話の概要</p>	<p>中国の主要都市における、地下鉄、地下道路、地下街等の地下施設の整備について、写真を見ながらお話いただいた。</p> <p>地下鉄の経年変化データ（延長）から、中国の地下鉄道網が急激にのびており、都市が発展していることがわかる。新しいまちづくりでは、地下鉄とあわせて、地下街等の地下空間利用が進んでいる。（上海、南京、無錫、蘇州、武漢）</p> <p>また、香港に隣接する埋立てエリアでも 800 万㎡という地下空間利用が計画され、建設されつつある。（前海）</p> <p>これらの「まちづくり」は都市計画、交通計画にのっとって行われている。</p>		
<p>意見交換 の概要</p>	<p>▼中国は市場が大きく、仕事量が多いため経験値があり、建設技術は高い。建設機械もすでに自前である。▼植栽やバリアフリーなど、環境に配慮した都市計画も進んでいる。▼地上は屋台など古典的、庶民的な店舗、地下は外国のブランドなどハイクラスな店舗を配置するなど、フロア毎に役割の分担がみられる。▼日本のように既存の鉄道に新たに鉄道を継ぎ足していないため、乗継ぎがスムーズにできる。▼地下空間を担当する部局として、大学と連携し軌道系デザインを行っているところがある。▼安全性では、防災より、防空（軍備）としての意識が強い。また、法の整備はされていない。▼整備費用は投資顧問会社が集めている。国内だけでなく、海外にも投資をしており、サンクンガーデン、地下駐車場、鉄道、鉄道接続部分をセットで買うなど、かなりの力がある。日本では中国経済の景気減速などが話題になっているが、インフラ系は右肩上がりのようだ。▼土地は借家であるが、70 年とほぼ民間の土地といえる。▼ビルの販売、管理等を行う民間会社もある。▼日本で学んだ技術者が各都市にいることもあり、日本を参考としている部分もある。▼日本の企業が設計等に参加しているものもある。▼日本における“駅なか”のような施設はまだない。▼日本の近接施工による複層（複合）利用や施工時の安全確保等、また、大深度法にも注目している。</p>		
<p>記録者の ひとこと</p>	<p>中国の地下空間の利用がとても進んでいること、またその規模がとても大きいことに驚きました。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 飯田のり子》</p>		